

令和4年度
江戸川区学校応援団
実践報告書

【中学校】

令和5年3月
江戸川区教育委員会

目 次

小松川第一中学校	• • • • • • • • • •	P 1
小小松川第二中学校	• • • • • • • • • •	P 3
小小松川第三中学校	• • • • • • • • • •	P 5
小松江第一中学校	• • • • • • • • • •	P 7
松江第二中学校	• • • • • • • • • •	P 9
松江第三中学校	• • • • • • • • • •	P11
松江第四中学校	• • • • • • • • • •	P13
松江第五中学校	• • • • • • • • • •	P15
松江第六中学校	• • • • • • • • • •	P17
二之江中学校	• • • • • • • • • •	P19
葛西中学校	• • • • • • • • • •	P21
葛西第二中学校	• • • • • • • • • •	P23
葛西第三中学校	• • • • • • • • • •	P25
南葛西中学校	• • • • • • • • • •	P27
南葛西第二中学校	• • • • • • • • • •	P29
西葛西中学校	• • • • • • • • • •	P31
東葛西中学校	• • • • • • • • • •	P33
清新第一中学校	• • • • • • • • • •	P35
清新第二中学校	• • • • • • • • • •	P37
瑞江中学校	• • • • • • • • • •	P39
瑞江第二中学校	• • • • • • • • • •	P41
瑞江第三中学校	• • • • • • • • • •	P43
春江中学校	• • • • • • • • • •	P45
鹿本中学校	• • • • • • • • • •	P47
鹿骨中学校	• • • • • • • • • •	P49
篠崎中学校	• • • • • • • • • •	P51
篠崎第二中学校	• • • • • • • • • •	P53
小岩第一中学校	• • • • • • • • • •	P55
小小岩第二中学校	• • • • • • • • • •	P57
小小岩第三中学校	• • • • • • • • • •	P59
小小岩第四中学校	• • • • • • • • • •	P61
小小岩第五中学校	• • • • • • • • • •	P63
上一色中学校	• • • • • • • • • •	P65

小松川第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小松川第一中学校長 大林 博
 コーディネーター 松本 洋之

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	250人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
朝のあいさつ運動	ほぼ毎日	180人
感染防止講演会	年1回	1人
薬物乱用防止教室	年1回	4人
進路講座	年3回	8人
SNS 講座	年1回	2人
職業講話	年1回	2人
道徳講話	年1回	2人



こまいち祭り（令和4年10月8日）



進路講演会（令和4年9月16日）

4 今年度の成果と課題

<成 果>

本年度は、例年実施していた学校と地域を繋ぐ行事である「こまいち祭り」を学校応援団の構成員を兼務するPTAの協力の下で実施した。この祭りはコロナ禍により中断をしていたが、地域から復活について強い要望があり、感染対策を十分に取りながら学校応援団のご尽力のもと開催することができた。以前と比べて規模は縮小となったが、生徒や地域住民からは「実施することができてよかった」といった感想を得られた。また、「朝の登校見守り運動」を実施し、従前から多くのボランティアの参加を得ている。昨年に引き続き、「薬物乱用防止教室」「進路講座」「SNS 講座」「職業講話」について、地域の方々や校外学習でお世話になる方々にボランティアを引き受けていただいで実施している。

このように、学校や地域における様々な活動を通して地域の方々からたくさんのご意見をいただき、親交を深めつつ、地域の一員としての足場を固めている。

<課 題>

今年度は、その規模が縮小傾向にあるとはいえ、地域行事が少しずつ再開されるようになった。令和4年冬に実施された「小松川千本桜育樹祭」や「小松川平井マラソン大会」に参加する生徒たちは、地域の一員として自覚を持つ貴重な体験を積み重ねている。その一方で事情により参加できなかった生徒も少なくなかった。さらに多くの生徒が主体的に参加できるように出来ることを模索していきたい。また本校の生徒のために時間と労力を費やして下さる地域の方々へ、感謝の気持ちを持つように生徒たちへ指導を継続していきたい。

5 コーディネーターより

学校・保護者・地域が一体となって諸活動に取り組むことができるように学校応援団コーディネーターとして協力させていただいています。今年度も感染症対策を継続しながら、地域ぐるみで子どもたちを見守り、育てていくという方針の下、多くの保護者・地域の皆様からのご理解とご協力に基づきまして活動を進めてまいりたいと考えています。

これからもこの活動を継続できるように、保護者・地域の皆様には、これまで培ってきた自らの経験や知識・技能を生かしていただければ幸いです。「できる人」が「できる時」に「できる事」をやるということの基本として、ご支援、ご協力をお願いしたいと考えています。

6 学校長より

本校では、学校主催の活動と地域主催の活動の両方を「学校応援団の活動」として位置付けている。

●学校主催で行う活動

学校主催で行う活動は、前ページの「3 今年度の活動状況」に記載した内容である。本校の学校行事は学校応援団の方々の協力によって支えられて成り立っており、これまでも大きな成果を収めてきた。今年度は、学校応援団の協力を得て「新たな生活様式」を踏まえつつ、「進路講話」や「道徳講話」などコロナ禍で一定の制限がかけられていたが各種講演を充実させることができた。将来を見据えて行動をしていることの大切さや、思いやりの心を育んでいけるような学習を行った。

●地域主催の活動

例年、青少年育成地区委員会では地域行事の進行に関して大勢のボランティアを募集している。これまで、本校では生徒にボランティア活動を奨励して進行の協力を経験させており、地域の方々と触れ合うことで地域の一員としての自覚を深める機会をもってきた。

次年度以降もこれまでのように、学校応援団の方々から支援と協力をいただきながら、今後も地域・保護者との関わりを大切にしつつ、生徒の健全育成に努めていく。

小松川第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小松川第二中学校長 横澤 広美
コーディネーター 村上 則俊

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	60人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校行事協力	不定期	40人
環境整備	不定期	20人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

毎年、本校の教育活動全般を学校応援団活動によりバックアップしていただいています。その中でも本校の二大行事である運動会、文化祭等の大きな行事の運営に御尽力いただいています。昨年度までは中止や縮小開催等の対応でしたが、今年度は感染症対策を取りながら保護者に開放する形に戻すことができ、応援団の方々にもご協力いただくことができました。文化祭では、文化センター大ホールで合唱コンクールを行う等、地域の方のご協力なしには実現できませんでした。まだまだ先の見えないコロナ禍ですが、新しい生活様式に向けて、生徒の健康・安全を守るため、多くの方々に御協力いただけて感謝の一言に尽きます。

<課 題>

昨年度に引き続き今年度もコロナウイルス感染症のため、多くの活動に制限がある中でしたが、少しずつ例年の活動に近づけようとしてきました。そのような中で学校応援団の活動の多くをまだまだ学校の教員やPTA本部役員の方々をお願いしており、多大なる御負担をおかけしています。より多くの方々に学校応援団活動を知っていただき、御協力いただくためには、さらに広報活動を盛んにしていく必要があると考えます。

5 コーディネーターより

今年度は学校行事が通常に戻りつつあるので、従来に近い形で学校運営に貢献することができました。そして、校内の消毒活動や環境美化など生徒の安心安全のために活動をしてきました。今後もさらに多くの方々に御協力いただくため、機会を見て宣伝や勧誘を行い、いろいろな分野で学校の教育活動を応援していきたいと考えております。

6 学校長より

生徒は地域の中で育ち、学校は地域に支えられています。本校の教育活動に御協力、御尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。今年度も学校応援団の皆様の御協力を得て、充実した教育活動を行うことができました。今後も引き続き御支援、御協力をよろしくお願いいたします。

小松川第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小松川第三中学校長 小野塚 浩樹
 コーディネーター 鹿倉 勇



2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	50人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学習補充指導	今年度中止	0人
行事運営補助	不定期	50人
コマサンまつり	今年度中止	0人
出前授業・講演	校内職員で実施	0人
環境整備・安全指導	不定期（花壇の整備）	0人



4 今年度の成果と課題



<成 果>

「学びを止めない」今年度は合言葉で、感染症対策をしながらも学校行事が戻ってきた。子供たちの心に火が付き、無観客であったが合唱コンクールを盛大に行うことができた。運動会は屋外であるので通常通りの実施、また、地域協働防災訓練においては、学校教職員、生徒、地域の方々を含めて、160名以上の参加により学びを深め、交流を図ることができた。生徒会をはじめ、生徒の積極的な活動と、温かい地域の方々の融合が見られ、活気のある学校が戻ってきたことは大きな成果であった。大きなPTA行事である「コマサン祭り」が実施できなかったことは残念であるが、感染が急拡大した時期であったので仕方がなかった。本校は、今年度で閉校を迎える。地域の方々、関係者に支えられて、残りの期間、学校を応援して頂き心に残る閉校を迎えたいところである。

<課 題>

成果でも述べたように、学校行事が戻ってきたことで、地域とのかかわりも必然的に戻ってきた。しかし、二年間のブランクもあり、人も変わる中で、過去に実施してきた内容を継続するか、また、新しい学校が立ち上がる中で、地域のどの方々に協力していただき、どのような内容を進めていくのが新たな課題である。

また、学びは止めないが、新型コロナウイルス感染症は形を変え、時期によって、また実施が困難なことも十分考えられる。その中でも持続可能な、取り組みを考えていく必要がある。

5 コーディネーターより

本校同窓会長兼コーディネーターを務めさせて頂いております。微力ながら、学校、家庭、地域をつないできました。また現在は、学校評議委員として常に小松川第三中学校を見守ってきました。学校応援団コーディネーターとして「やれることから」をスローガンに活動していきたいと考えています。しかしながら、生徒、PTA、各町会・地域の事業所などの力を集結させるコマサン祭は、今年度も残念ながら中止となりました。コロナ禍がおさまり、今後も地域の中のコマサンとして子どもたちの学校生活をサポートしていきたいと考えています。

6 学校長より

平井・小松川地区は、元々地域が人・子供を育てようという営みが盛んな地域です。生徒達の参加するボランティア活動を多数用意し、地域の方々が地域に生きる生徒を育てていただいています。そのような環境の中で、本校は「ふれあい」を大切に「アットホームな学校づくり」に取り組んでおります。

また「持続可能な開発のための教育（ESD）」に取り組むべく、校内研修を進める中で、生徒の学習活動を家庭や地域に広げていくことができればとも考えています。サステナブルスクールを目指し、学校応援団の皆様とも今後も連携していきます。

本校は皆様の温かいご支援に支えられて六十七年間の歩みを続けて参りましたが、三月末をもって閉校します。長い歴史を紡いできた小松川第三中学校は閉校しますが、「学校応援団」の方々の想いは次年度にも引き継いでいきたいと思っております。

松江第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第一中学校長 山 岸 健
 コーディネーター 中 里 義 雄

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	80人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書室整理・管理支援	毎週水曜を基本とする	20人
行事支援(蓮の植え)	1学期(不定期)	40人
行事支援(蓮の収穫祭)	2学期(不定期)	50人
蓮田の管理支援	毎週(不定期)	1人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・例年通り学校応援団（松江会（同窓会）、P T A、地域の方）と協力して蓮池を守ることができた。蓮植え・蓮掘りも多くの方の支援を受けて規模を縮小し行うことができた。
- ・保護者の方による学校図書館ボランティア活動が組織され11年目となった。学校の行事や時程の連絡を担当の方から連絡をとりながら、開館することができた。急な閉館はなかった。

<課 題>

- ・感染症対策を施した学校応援団活動の実施とご理解をいただくこと。
- ・学校応援団の安定した人員の確保をすること。

5 コーディネーターより

第三十一代P T A会長の中里です。コーディネーター11年目になります。今年度も新型コロナウイルスの感染防止のため「蓮の収穫」が心配されましたが、学校評議員、P T A、地域の方、松江会（同窓会）のご支援、さらに、ボランティアさんの協力のもとで、4月30日（土）蓮植えと11月23日（水）勤労感謝の日に蓮を収穫することができました。昨年度と同様の蓮を収穫することができました。来年度も引き続き実施していきたいと思います。また、保護者の方のご協力による学校図書館ボランティア活動が定着し、毎週水曜日に図書室の開館ができるようになりました。

今後も学校評議員、P T A、地域の方、松江会（同窓会）の方々と協力して、松江一中のためにできることに積極的に取り組んでいきたいと思っています。

6 学校長より

本校では、学校応援団発足以前より学校評議員、P T A、地域の方、松江会（同窓会）をはじめ多くの方から様々なご支援をいただけてきました。地域の方、P T A、学校をつなぐ大切な要となっているのは、蓮関連の行事です。松江会（同窓会）のたゆまぬご協力をいただきながら、脈々と引き継がれてきました。今後も継続していきます。

子どもたちが地域に見守られ育っていく姿、地域・保護者・学校が共に子どもたちを育てていく姿は理想です。この松江地区には、その土壌が育まれています。今後ともよろしくお願いします。

松江第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第二中学校長 折橋 信二
コーディネーター 関 和典

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	9人
	学生ボランティア	12人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
あいさつ運動	毎月1回 月曜日 8:00~	各6人
花壇づくり	11月26日(土) 10:00~12:00	12人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年の学校応援団の活動は、新型コロナウイルスの影響もあり、例年行われていた活動を縮小して、あいさつ運動と花壇づくりのみを実施しました。

あいさつ運動は、PTAの校外委員の保護者の皆様と連携して同じ日に実施しました。地域の方々と保護者の方々の温かい声掛けにより、生徒たちは笑顔で登校できていました。朝の登校時に足を運んでいただくことで、登校に活気が出て、とても効果のある取り組みとなっていました。

花壇づくりは、学校応援団の方々と生徒達がそれぞれ4グループに分かれ、パンジーやシクラメン、チューリップ、スノーポールなど、多くの花を花壇に植えました。学校応援団の方と生徒が相談しながら花の配置を考えたり、土を耕したりして、花壇づくりで分からないことを教わりながら活動していました。また、昔の松江二中の学校生活や生徒の様子を学校応援団の方と話しながら活動をすることができ、大きな収穫でした。

地域の方々と交流を深めながら一緒にできる活動があることはとても良い機会で、生徒にとってとても刺激のある活動になりました。今後もこのような機会を増やし、継続して続けていきたいと思えます。

<課 題>

今年度の学校応援団の課題として挙げられることは次の2つです。

- ① 活動内容については、生徒会が主体で行っている落ち葉掃き(クリーンアッププロジェクト)などを学校応援団と連携することができるため、学校活動と地域活動の融合を図ることが課題である。
- ② 学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子供を育てるために、より多くのボランティアを募ることが課題である。

5 コーディネーターより

松江第二中学校学校応援団コーディネーターの関です。今年は、コロナ禍の影響で、3年ぶりに朝の挨拶運動で、生徒たちの元気な声を聴くことができました。

11月の花壇づくりは、学校でチューリップやパンジーなど八種類の球根や苗を準備していただきました。武田先生、坂田先生をはじめ、生徒会役員、ボランティア部員の参加、協力により、約2時間わきあいあいと花植えができました。学校応援団員達も、3~4額の開花を楽しみにしています。

コロナ感染の影響で、今年度も3年生の面接練習、茶道教室が中止となりましたが、このような応援団の活動に関わった子供たちの成長していく姿を見るのがとても嬉しく思います。今後とも良い学校づくりに携わっていきたいと思えます。

6 学校長より

松江第二中学校学校応援団は、学校、家庭、地域が一体となり、地域ぐるみで子供を育てる体制を整備することを目的として、平成23年度に結成されました。今年度もコロナ禍ではありますが、コーディネーターの関さんを中心に、あいさつ運動や花壇づくりを実施しました。学校応援団の方々と生徒と一緒に活動することは、健全育成を促す上でとても貴重な体験となります。今後も、学校応援団の方々のご協力をいただきながら、より多くの活動を行っていきたいと思えます。

松江第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第三中学校 校長 大久保 和彦
コーディネーター 上野 康雄

2 ボランティア数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	30人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
登下校巡回見回り	不定期	20人
環境整備	不定期	10人
行事支援（体育祭案内）	不定期	30人
祭礼パトロール	夏季休業中（今年度は中止）	20人

<学校応援団感謝状贈呈>

平成30年度、11月1日の東京都教育の日に、平成30年度学校活動支援団体に対する感謝状贈呈式において、地域における児童・生徒の育成活動部門で、本校の学校応援団団長、上野康雄様が感謝状を頂きました。これからも学校応援団、OB会、PTA（現在、活動休止中）の方々の活動支援を賜りますようお願い致します。

<地域防災>

毎年消防署の方を招き、保護者や地域の方々に参加していただく訓練です。（今年度は消防署の都内全域訓練のため、消防署の方はお招きできませんでした。）令和4年度は、11月26日（土）に一斉下校訓練を行いました。東四町会から寄贈していただいた防災用ヘルメットを装着し、体育館に避難し、一斉下校を行いました。防災用ヘルメットは今後も有効に活用していきます。



<花壇及び菜園>

27年度より花壇を作り菜園として手入れをし、色々な作物を育てています。また、五年前から「耕運機」を稼働させ、耕す時間が大幅に減少できています。花壇隣には防災井戸も完成し、今後の水やりにも活用していきます。

4 今年度の成果と課題

<成 果>

○花壇と菜園は、地域の方や園芸関係の方から手ほどきを受け、徐々に成果を出していくことが課題です。次回の挑戦は「馬鈴薯」を収穫することです。他の作物の収穫も目指した取り組みをします。数年後に松三中産の収穫物をお見せすることが出来るようにしていきます。ここ数年は、花壇の周囲を整備するために、青竹を購入し竹垣を作っています。

○令和元年度、地域防災のボランティア活動に21名の生徒が参加しました。また近隣小学校のボランティアには33名の生徒が参加し、地域を盛り上げました。人の役に立ったり、人から喜んでもらえたりすることは、自分にとってもやりがいや喜びにつながっていくものです。令和4年度はコロナ禍のため、中止になりましたが、コロナ収束後は様々な地域行事が行われ、多くの本校生徒が進んでボランティア活動に参加することを願っています。

<課 題>

○四年前より、諸事情で三中フェスティバルを実施できていませんが、またの機会があれば、メンバー全員で盛り上げて実施したいと考えています。学校応援団、OB会、PTA（現在、活動休止中）の方々は、お仕事をもちつつ学校への協力ということでお忙しい時間のやりくりをして頂く中、どう時間を捻出し、効果的に色々な取組みにしていくかを考えていきたいと思えます。

5 コーディネーターより

学校応援団として、祭礼パトロール、三中フェスティバルへの協力、菜園の定期的な管理をしてきましたが、平成30年度に東京都教育委員会より学校活動支援団体に対する感謝状を頂くことができました。校長先生からは「何かあったときに助けてくれる学校応援団でいてください。」という言葉をいただいておりますので、これからも、松江三中の生徒たちを見守り、先生方やPTA（現在、活動休止中）からの要請があればいつでも協力できる体制を整えています。

今後も活動内容を工夫しながら「松江三中の生徒たちに見てもらえ、参加してもらえ」活動を目指していきたいと思えます。

6 学校長より

昨年度まで、コロナ禍で様々な学校行事・地域行事が中止になり、大変残念でした。しかし、今年度は感染症対策を万全にし、また様々な工夫をして、体育祭や合唱コンクール、修学旅行や林間学校を実施することができました。学校応援団の方には、本校の教育活動を様々な側面からご支援いただきながら、生徒たちを地域で見守っていただきました。

常に思うことですが、ほとんどの応援団の皆様がお仕事を持っていらっしゃる、たいへんお忙しい中にもかかわらず、いつも松江三中のために、と気にかけていただき、本当に頭の下がる思いです。これからも生徒たちのために、本校教育活動にご協力いただきながら「何かあったときに助けてもらえる学校応援団」でいていただけよう、心よりお願い申し上げます。



松江第四中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第四中学校長 鶴澤 伸一
 コーディネーター 富永 秀樹

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	15 人
	生徒ボランティア	574 人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
園芸整備	10月	5 人
校内池整備	5月	10人
清掃活動	11月から12月	全校生徒
学校行事補助	今年度は依頼せず	
四中ステージ	10月	10 人



4 今年度の成果と課題



<成 果>

本年度も新型コロナウイルス感染予防を最優先にしたため、学校応援団の活動も校内を中心とした活動になりました。

本校用務主事、教師、ボランティア生徒が協力して、校門付近の花壇の整備や清掃活動を行いました。学校周辺の清掃活動に熱心に取り組む生徒の姿は、地域でも高い評価を受けています。また、正面玄関口にある池のメダカの飼育は、ボランティア生徒の活動として、昨年度の取組を引き継ぎました。元PTA会長から頂いた「みゆきメダカ」の餌やりや、稚魚を別容器での飼育、池の清掃など、教師と生徒がかかわるがわるに面倒をしています。そのおかげでメダカは大きく成長し、数も増えております。生徒もその成長を楽しみにしておりますし、来校者からもメダカの群れに感嘆の声があがります。これらは、本校でも実践している持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みにつながっています。

更に10月には、学校応援団・PTAの協力により、「松四フェスティバル」に代わる「四中ステージ」を生徒限定（保護者非公開）で行うことができました。

<課 題>

生徒の地域でのボランティア活動は引き続き見合わせました。

今後も社会の変化に応じて、学校応援団の活動も工夫して行う必要があります。

5 コーディネーターより

今年度も新型コロナウイルス感染防止への対応のため、学校だけでなく社会や家庭での生活も大きく変化してきました。これまで、学校現場は本当に大変だったと思いますが、少しずつ、工夫しながらの活動が行える状態になってきています。校長先生をはじめ先生方が日々丁寧に対応していただき、校内での感染は抑えられ、安心して学校生活を送れることに、感謝しております。

学校応援団も感染拡大を防ぐため、規模を縮小した活動となりましたが、今後も学校応援団として変化に対応した協力をしていきたいと思っております。

6 学校長より

今年度もコロナ禍での活動となりましたが、日頃より学校応援団の皆様の活動には心よりお礼申し上げます。活動は「元通りに」とはいきませんが、皆様の取り組みが生徒の意欲と励みになっていることに感謝しております。世の中が早く元の状態になり、生徒の地域での輝く活動が戻ることを願っております。今後も応援下さいますようお願い致します。

松江第五中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第五中学校長 荒巻 淳
 コーディネーター 牧島 孝行

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	4人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
夢を育む講演会	○ラモス瑠偉 元サッカー選手 サッカー指導者 フットサル選手 タレント 3月7日(火) 「夢をあきらめない」	
学校図書館の充実	○学校図書館の整備 ・蔵書の分類 ・分類シールの貼り換え ・図書委員への指導	4名
地域貢献活動	○学校清掃ボランティアへ参加 ・生徒会、有志生徒	100名

4 今年度の成果と課題

<成 果>

夢を育む講演会では、ラモス瑠偉氏による「夢をあきらめない」について語っていただきました。ラモス瑠偉氏のこれまでのサッカーをとおしての経験から得たこと、学んだこと、伝えたいことを熱く語っていただきました。保護者の皆様にも会場の限られたスペースで、できるだけ多くの方に参観していただきました。

学校図書館の整備では、ボランティアの地域の方4名に手伝っていただき、新規購入本の整備がほぼ終わっています。毎年学校として本を購入していますが、その整備はボランティアの皆さんが一手に担ってくれています。今後は委員会活動において本の貸し出しや返却をスムーズに行い、本の紛失を防いでいきます。

地域貢献活動では、今年度はコロナ禍以前の状態に戻し、生徒会本部役員・有志のボランティア生徒を募り、実施できました。生徒会主催の校内清掃ボランティアは、夏休み終了前と冬休み終了前に行い、毎回100近い生徒たちが参加し、普段できない場所の清掃を行います。

<課 題>

「夢を育む講演会」では、今後有名になる可能性の高い講演者をお呼びすることができ盛況でした。今年度は実施できるか危ぶまれましたが実施できよかったです。この講演会は生徒たちに計り知れない効果があると確信しています。今後も継続できればと考えています。来年度以降も予算の範囲内で質の高い内容を検討していきます。小学校の出前指導では朝早いため顧問の負担がありました。地域の祭りやボランティア等への参加は、積極的な生徒は多いですが、来年度も同じ体制でやれるかが課題と考えます。

5 コーディネーターより

私、牧島孝行は松江第五中学校の学校応援団として、ついに11年目を迎えます。一之江小学校でも学校応援団コーディネーターとして活動してまいりました。学校応援団の活動として特に力を入れたのは「地域貢献活動」です。地域の小学校と中学校、高校が連携を図りながら地域の人々と関わっていくことはとても意義のあることだと考えますが、今年度は残念ながら一之江西口まつりや中央・一之江ふるさとまつりは中止となり、来年度以降もどうなるか先の見えない時代です。しかし、学校を元気にして地域を支えながら、地域を活性化させ地域で暮らす人たちを結びつける活動をこれからも続けられるよう知恵を絞って取り組んでいきたいと思ひます。

私は松江第五中学校の卒業生でもあり、母校の後輩でもある地域の子供たちの活躍に大いに期待をしています。松江第五中学校が地域の拠点として絆が強く太いものになることを願っています。

6 学校長より

校長として3年目を迎えました。歴代PTA会長やOBの皆様の松江第五中学校に対する熱く強い思いをいつも感じています。地域に貢献できる活動が今年もほとんどできず残念でしたが、本校を応援して下さる皆様の熱意に応えるべく、教職員一丸となって松江五中の教育活動に全力で取り組んでまいります。これからもご協力をいただく場面が多いと思ひますが、よろしくお願ひいたします。

松江第六中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第六中学校長 小野満 賢
コーディネーター 平田 光男

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備	不定期	10人
花植え運動	不定期	5人
朝のあいさつ運動	毎朝	1人
六中まつり	不定期	20人



六中まつりの様子



朝のあいさつ運動

4 今年度の成果と課題

<成 果>

主な活動は、環境整備として校門近くの花壇の花植え、シンボルの池の掃除、そして朝のあいさつ運動でした。今年度、10月の六中まつりは3年ぶりに地域の小学生を招待する形式で開催することができ、11月の五町会防災訓練・避難訓練は新型コロナウイルス感染防止のため、役員のみでの参加という形式で3年ぶりに実施することができました。六中まつりでは、大変困難な状況のもとで、どのような形式であれば開催が可能かを重ねて検討し、感染予防対策を十分とりつつ、当日は生徒・児童が楽しく過ごせる時間を作り出すことができました。このことは、本校生徒が今まで地域の方々と一緒にボランティア活動に参加してきたことが生かされ、コロナ禍でも何か自分たちにできることはないかと考えた結果だと思えます。

<課 題>

今年度は昨年度に引き続き応援団の方と生徒と一緒に活動することがなかったので、来年度はこれまでの取り組みを引き継いでいくためにも、六中まつりや五町会合同防災訓練・避難訓練の実施に向けて生徒が学校応援団や地域の方と触れ合いながら取り組める内容について検討する必要があります。また、生徒会を中心としたボランティア活動などに学校応援団の方々に関わっていただけるものがないか考えていくことも課題です。

5 コーディネーターより

学校応援団のコーディネーターとして今年も、思うような活動ができませんでした。新型コロナウイルス感染防止のために長年積み重ねてきた行事ができなくなり、私達だけでなく子供たちが辛い思いをしていることに大変歯がゆい思いをいたしておりました。しかし、そんな中でも環境活動として花壇の花植えや池の掃除ができてよかったと思います。また、六中まつりを3年ぶりに地域の小学生を招く形式で開催できたことが応援団として今年の大きな成果でした。

子供たちは将来地域を支える大切な人材です。今後も学校応援団の活動をとおして、松江第六中学校を支援してまいりたいと思っております。

6 学校長より

将来の地域の担い手の育成ということで、例年、学校応援団の皆様には松江六中の教育環境の整備を行っていただくとともに、地域の行事にも本校ボランティア生徒を参加させていただくなど、学校と地域の橋渡しを積極的に行っていただいております。しかし、今年も新型コロナウイルス感染症のために、生徒が参加できる地域行事が中止となってしまったため、学校の環境整備と朝のあいさつ運動を中心に活動を行っていただきました。また、学校行事へのご招待もなかなかできず、学校の様子を直接ご参観いただけない状況にもかかわらず、これまでと変わらぬご理解・ご協力を賜り心より感謝申し上げますとともに、今後も引き続き本校へのご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

二之江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

二之江中学校長 茅原 直樹
コーディネーター 青山 朋弘

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	35人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
二之江中を愛し育てる会	標語の顕彰（各学期1回） 環境整備（不定期）	20人
図書館ボランティア	図書の整理と図書室の装飾	2人
学習指導	エンカレッジルームに来る生徒の 学習指導（毎週水曜）	2人
花のある学校づくり	栽培活動（不定期）	2人



図書館ボランティアによる季節に応じた装飾

4 今年度の成果と課題

<成 果>

- エンカレッジルームに来る生徒に対して学習指導を行うことができた。昨年度に引き続き都の人材バンクの紹介をお願いしている。来年度も継続してお願いする予定である。
- 二之江中を愛し育てる会の活動は今年度も計画どおり実施でき、顕彰作品への生徒の応募も例年以上に多く、会の方も喜んでいる。

<課 題>

- コロナ前のような活動に戻りつつあるが、引き続き、新型コロナウイルス感染拡大を鑑みながら活動をしていく必要がある。
- エンカレッジルームの学習支援は、スタッフの継続ができそうなので、引き続き依頼し発展させたい。
- 二之江中を愛し育てる会は、標語の顕彰を中心に様々なことに対して応援してくださる。来年度以降も引き続き応援していただけるよう良好な関係を築いていく。
- これまで培ったノウハウが途絶えることのないようにしていきたい。

5 コーディネーターより

コロナ前の活動に戻りつつあるが、新型コロナウイルス感染拡大防止に十分配慮しながら皆様が二之江中学校を応援して下さり感謝いたします。さて、昨年度に引き続き、学校・家庭・地域社会の三者の役割分担と密接な連携のもと、「子どもたちのために大人は何ができるのか？」これが教育の原点と考えております。このことを念頭に置き、皆様の協力を得て、三者の橋渡しをしていきたいと思っております。今後とも、二之江中学校を応援するため、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

6 学校長より

学校応援団活動以前より、二之江中には二之江中を愛し育てる会、ご卒業された PTA の OB 会である三江会という絶大な応援団が存在していました。現在もなお組織がしっかりと機能し、学校の教育活動に様々な形でご支援、ご協力、ご理解を得ているところです。また学校応援団としての中心的な役割を担っていただいています。組織を維持させ成長させていただいていることは本当に心強く感じています。学校としてもその支えに報いるためにも全教職員が一丸となってよりよい学校づくりに邁進していきたいと考えています。今後も各団体の特徴を生かした活動を続けていただき、コーディネーターを中心に学校・家庭・地域の更なる結びつきが強くなるよう願っています。

本校の学校応援団の活動は、多くの皆様のご理解・ご協力により順調に活動しています。新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、今後とも、子どもたちのかけがえのない中学校生活 3 年間でより充実したものとなるよう、学校応援団の皆様のご支援をよろしくお願いしたいと思います。

葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西中学校長 内野 雅晶
コーディネーター 土田 知美

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	25人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
防災ボランティア	8月27日	15名ほど
図書館整理ボランティア	週1回(毎週水曜日)	10名ほど
図書館清掃ボランティア	7月21日、7月22日 12月10日、3月4日	各回10名ほど



防災ボランティア



図書館清掃ボランティア

4 今年度の成果と課題

<成 果>

○今年度は、新型コロナウイルス感染症の対策を行いながらではありますが、学校の行事やPTA活動はコロナ禍以前の内容にほぼ戻した1年でした。その中で、学校応援団の活動の「図書ボランティア」「防災ボランティア」は、昨年度の課題を踏まえ、今年度は昨年度を発展させた形で実施することができました。「図書ボランティア」は過去の実績から、学校応援団のメンバーも方法が分かり、スムーズに実施することができました。学校図書館が使いやすく、大変きれいに整理されているのは、学校応援団の賜物であります。「防災ボランティア」も2年目に入り、昨年度より、内容が増え、非常に教育効果の高いものになりました。

<課 題>

○「図書ボランティア」に関しては、企画、実施することが軌道にのり活動は円滑になっています。しかし、毎年継続して実施していくためには、ボランティアに協力していただける、新しいメンバーを増やしていくことが課題である。「防災ボランティア」は自助、共助の観点から、非常に大切なことである。地域町会、消防署との連携をさらに深め、より充実した活動にできたらと考えている。

5 コーディネーターより

- 年間を通して新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めながら、教職員や生徒と協力し、活動できたことは有意義なことでした。特に「防災ボランティア」の活動は地域にも貢献できたと考えています。
- 学校応援団の活動のさらなる推進のため、より多くの人に参加し関われるよう、活動を広げていく視点で、発信方法をさらに工夫していきたいと思っております

6 学校長より

○学校応援団コーディネーターの土田様をはじめ、「防災ボランティア」「図書ボランティア」の活動に携わった学校応援団の方々に、常日頃の活動について深く感謝申し上げます。「図書ボランティア」の方々のおかげで、生徒がきもちよく図書館が使えるようになっていて感じています。また、「防災ボランティア」の方々のおかげで、学校の「防災教育」がより充実したものになっています。このような学校応援団の活動は、教員だけでは、運営できないものです。みなさまのお力添えがあるおかげで学校の円滑な運営ができております。今後とも、生徒の健全育成のためにご理解とご支援よろしくお願いいたします。

葛西第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西第二中学校長 植木 清
コーディネーター 福島 剛

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	8人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動予定

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
校内落ち葉掃き活動	年4回	(4人)
身近な地域を知る講演	年1回	(1人)
校庭美化活動 (樹木・花壇の美化)	年1回	(3人)

4 今年度の成果と課題

学校応援団の活動であった「地域面接」「防災訓練」「盆踊りの巡回」は、本年度も含め新型コロナウイルス感染防止のため令和2年度、令和3年度ともに実施ができない状況が続いていた。そこで、本年度は新たな活動を立案し、実践する運びとなった。

<成果>

「校内落ち葉掃き活動」「校庭美化活動」においては、本校の活動の一環として行っていた「校内落ち葉掃きボランティア活動」をより充実させ、地域の方々に参加していただく形式に変え実施した。

令和5年度秋より仮設校舎建設から、いよいよ本格的に建て替え工事期間に突入する。よって、現校舎の建て壊しによる「別れ」も近づいてきている。多くの卒業生、現役生を見守ってきた現校舎にたいし、本校卒業生である地域の方々と共に感謝の気持ちを表すにあたり、とても学びのある活動になった。

「身近な地域を知る講演」では、本校の卒業生であり、本地域で活躍されている

方を招いて、地域の歴史や地域愛についてお話しいただいた。新型コロナウイルス感染防止のため、盆踊りや祭りの中止が続き、生徒は地域の活動に参加できる機会が激減した。本来ならば、そのような行事をとおして、地域の歴史や人々の想いに触れ、地域愛を深めていくものだと考える。その機会を失った生徒たちに、学校応援団の活動を活用し、本内容を実施した。

地域の方より、「生徒が地域の宝である」というお話をしていただいた。この内容を受け、生徒の多くが現在、そして卒業後も地域貢献、社会貢献を含め活躍していくことにつながっていく一役を担えたと考える。

<課 題>

・新型コロナウイルスの感染防止のため、中止とする判断を余儀なくされてきた昨今において、感染状況を鑑みながらも、極力実施が可能となりえる活動を検討していかなくてはならない。

・学校応援団の活動については充実を図ることも大切であるが、教員の働き方改革も推進しながら、既存の活動を工夫し、よりよいものにしていくとともに新たな活動を模索しより充実した教育環境の整備を目指す。そのためにPTA・地域の方々に広く呼びかけ新たな人材の確保に努める。

また、協力していただく地域・保護者の方々、代表及び学校がより円滑に連絡・連携ができるシステムを工夫する。

5 コーディネーターより

本校における学校応援団の活動は来年度も引き続き現PTA本部役員やOB、そして同窓会、町会や地域の皆様といった本校とかわりのある皆様にご参加いただく形で活動していきたい。

従来から変わらずにご支援いただいている皆様には深く感謝申し上げますとともに、来年度も引き続き葛西二中へのご協力をいただけますようお願い申し上げます。

6 学校長より

学校応援団の活動を通して、PTAを中心とする保護者の皆様や、町会や地域の皆様、同窓会、PTA、OB、卒業生といった多くの皆様に応援団協力者として教育活動へのご支援・ご協力をいただき、成果を上げてまいりました。

本年度は新型コロナウイルスの感染防止のため新たな企画に挑戦することとなりましたが、これまで本校のためにご尽力いただいた皆様には心より感謝申し上げますとともに、今後も葛西第二中学校にご支援・ご協力のほどよろしく願いいたします。

葛西第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西第三中学校長 金澤 栄治
 コーディネーター 安次富 宏行

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備活動	不定期	5人
行事・周年行事支援	不定期	10人
部活動支援	不定期	5人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度は昨年に引き続き、コロナ禍のため地域のボランティア活動は縮小されましたが、校外周辺一帯のボランティア清掃を実施したり、地域の防犯活動に参加するなど、工夫して取組を行いました。奉仕活動に例年積極的に参加しているので、今後も、町会の行事や近隣の施設の清掃活動などがあれば積極的に参加するよう、生徒会活動とも連動させて呼びかけていきます。

生徒が校舎内外で安全で安心した学校生活が送れるよう、学校で、環境整備や学校行事・部活動の活性化に全力で取り組んでいます。学校応援団の方々にも例年ご協力をいただいております。

また、学校応援団の方の技術指導やサポートにより、学校行事の運動会や学芸発表会、各部活動の大会、発表会それぞれにおいて、優秀な成績を収めたり、より高度な活動または発表を継続して行っています。来年度の50周年行事に向けても、各種委員会で会議を行い、学校評議員会やPTA活動と連携し、準備を始めています。

地域の一員としていざというときに頼りになる存在として活躍できるよう学校でも指導していますが、地域の皆様にも生徒の健全育成にご協力をお願いしています。

<課 題>

コロナ禍の中で活動が縮小・限定されることがありますが、参加できるボランティア活動があれば推奨し、自主的に参加していくよう働きかけ、生徒を支援していきたいと思えます。

来年度は開校50周年ということもあり、継続して学校応援団に協力してくださる方に加え、今後、さらに応援団の数を増やしていくことで、より一層充実した活動を行うことを可能としていきます。コーディネーターと学校とが協力し、学校行事・部活動支援、環境整備活動、周年行事への支援等、学校応援団の活動をより多くの人に周知し、活動の幅を広げたいと考えていますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。

5 コーディネーターより

今年度も引き続きコーディネーターをさせていただき、ここ数年同様、コロナ禍により応援団としての活動は縮小していますが、徐々に協力できる機会や場を増やし、学校と保護者・地域が一体となって子どもたちを育てていくというスタンスは続けていきます。

現代社会の中で学校活動においてサポートできることは何かを考え、可能な限り協力できる体制を整えて取り組み、応援団としての務めを果たしていきたいと考えています。これからも学校応援団の活動が地域に広がり、参加される方がさらに増え、活発な活動になっていくよう、全力で役割を遂行していきます。

6 学校長より

昨年度に続きコロナ禍で、模索しながらの学校経営となりましたが、昨年度の教訓を生かし、感染症対策を徹底しての教育活動、学校行事に取り組みました。生徒たちは昨年度以上のもの、思い出に残るものとして自主的に活動し、本校の伝統を引き継ぐ活動が実施できました。と同時に自己肯定感も高められました。しかし、地域の方々や保護者への学校公開は、授業の配信または行事での学年ごとの公開は行いましたが、満足した形で生徒たちの生き生きと活躍の様子をお見せすることはまだまだできず、歯がゆい思いもいたしました。そのような状況でなんとかここまで学校運営ができましたのも、学校応援団の方々にお力添えをいただきましたことが大きな要因です。本当にありがとうございました。今後も、来年度に開催されます周年行事に向けてもご相談させていただきますので、引き続き学校応援団へのご理解・ご協力をお願いいたします。

南葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

南葛西中学校長 日野 志磨子
コーディネーター 佐野 義郎

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	40人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花壇・農園整備	不定期	20人
ふれあい面接	1月11日、12日	20人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

本校は、「地域とつながる南葛西中学校」として、多くの保護者や地域住民の方に支えられながらここまでできている。今年度も新型コロナウイルス感染拡大の予断を許さない状態の中であったが、昨年度に引き続き今年度も花壇や農園の整備をしていただいた。春に花壇に植えられたベコニア、マリーゴールドが生徒を毎日登下校で爽やかに迎え、秋から冬にかけては、パンジーやチューリップが生徒を見守ってくれていた。学校に彩を与え、生徒や教職員の心の安らぎとなっている。

そして今年度は「地域ふれあい面接」を実施することができた。今年度は3年生を対象とした二日間であったが、受験の面接に向けて、多くのアドバイスを受け交流を深めながら自分の進路について向き合うことができた。地域の方々とこの面接でふれあうことを通して、生徒は礼儀やコミュニケーション能力を高めることができ充実した会となった。

<課 題>

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大は衰えることがなかったが、学校応援団の方々をはじめ、地域の方々が少しずつ来校していただく機会を増やしていった。来年度も新しい生活様式を踏まえながら、学校にご協力していただく新しい形のボランティア活動を模索していかなければならないと感じている。

また今後も継続していくためには、新しく協力していただける方の発掘をしていかなければならない。町会、自治体の方々との連携を今後も強め、校務分掌の中に担当者を置き、学校全体で継続的、発展的に進めていくことが重要である。

5 コーディネーターより

南葛西中学校の学校応援団の活動は、多くの方々にご協力をいただき定着している。今まで、「地域ふれあい面接」や「図書館整備ボランティア」、「花壇や農園の作業」により地域と学校が一体となって生徒を見守ることができていた。

しかし今年度もまだ新型コロナウイルスが蔓延し、これからも感染拡大がいつ起こるか予想できない状況であり、例年活発に行われている学校応援団の活動が限られた中でしか行われなかったのは寂しい限りである。そんな中、今年度もまた一つ「地域ふれあい面接」が実施できたことはうれしいことである。

今後も学校応援団として新しい形のボランティア活動も模索しながら、「地域とともに歩む南中」を実感することができる温かい関係を育めるよう、地域の子供の成長を見守り続けていきたい。

6 学校長より

南葛西中学校は、学校応援団の方々をはじめ、これまで多くの地域の方々に支えられながら子供たちの健全育成に取り組んで参りました。今年度は「地域ふれあい面接」そして「花壇や農園の整備」に足を運んでいただき感謝しております。お忙しい中、時間を割いて本校のために行って下さる皆様の取り組み、関わりが、生徒にとって地域の一員としての自覚と、伝統を継承していく担い手としての自負が生まれてきています。今後ともご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

南葛西第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

南葛西第二中学校長 蓮沼 祥之
 コーディネーター 高島 由紀子

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	10人
	学生ボランティア	人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
陶芸	11月～1月 授業9回 準備、後作業 約60日120時間	3～4名
図書	定期6回	平均3名
家庭科(被服)	不定期	3～4名
社会人講話	不定期(1回)	7名



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・陶芸は、3～4名で各クラス3回の授業と、授業外での準備、焼き釜入れ窯出し等で、約60日120時間程度のご協力をいただいた。美術科教員1人では到底できない内容が可能となり、生徒も興味をもって楽しんでおり、充実した学習ができた。
- ・図書は、定期的に図書室の書架等整理をしていただき大変助かっている。
- ・家庭科被服授業では、裁縫作業の生徒活動を補助していただき大変助かっている。教科担任1人では全生徒の細かいフォローは不可能である。
- ・社会人講話は、2学年進路学習、チャレンジ・ザ・ドリーム（職場体験）の一環として実施。生徒は興味津々で講話に聞き入っていた。知らない世界、仕事の世界を垣間見て、見聞を広げたようだ。

<課 題>

陶芸の代表ボランティアの方が連日朝から夜まで作業しており、ボランティアといえど負担が大きいと感じる。学校側も、焼き窯の調整を依頼され時刻が19:00などとなり勤務時間外作業となっている。

5 コーディネーターより

今年度の活動は陶芸・図書・家庭科・社会人講話の4部門を全て無事終了することができました。コロナ禍で昨年度は見送った裁縫実習の補助が再開できたこと、また社会人講話では在校中に講話を受けた卒業生が今回は講師として参加してくれたことなど、コーディネーターとして嬉しい1年でもありました。

専門性の高い陶芸や図書のボランティアチームには、毎年のことながら敬意と感謝の言葉しかありません。

来年度も学校と連携を取り、皆様方の協力のもと応援団活動を進めていきたいと思っています。

6 学校長より

昨年度は縮小してお願いしておりましたが、今年度は陶芸・図書・家庭科・社会人講話の4部門全て実施することができ、いずれの活動もボランティアの方々には熱心に援助をしていただきました。陶芸や家庭科などでは、教員だけでは間に合わない学習活動の手伝いや支援などのおかげで、魅力的で楽しく充実した授業になりました。図書は、図書室の整理を行っていただくなど、目立たないところで支援していただき、社会人講話では、仕事現場の生の声、話を聞かせていただき貴重な経験となりました。生徒にとっては充実のサポートだったと思います。

ボランティアの方々には、生徒のために貴重なお時間をいただきました。感謝してもしきれない思いです。このような多くの方々の応援により学校がつくられているものだと、あらためて思う次第です。感謝。

西葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

西葛西中学校長 川崎 純一
コーディネーター 塙 正彦

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	25人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館ボランティア	毎週木曜日	12人
行事支援	不定期	13人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度も昨年度に引き続きコロナ禍であったが、感染防止対策を徹底して運動会、学芸発表会、学校公開等の行事を可能な限り実施した。その際にボランティアの方々に受付や会場整理等に関して支援していただき、大変助かった。また今年度も図書ボランティアの方々による活動を実施することができた。書棚の掃除、整理整頓、本の修繕、新しく購入した本の受入れ、古くなった本の除籍などの図書館内の整備と、毎週木曜日の生徒向けの放課後開館業務を行っていただいた。

<課 題>

例年実施している花壇・栽培ボランティア、3年生の面接指導の活動は残念ながら実施できなかった。来年度の実施に向けて準備をするとともに、新たな活動も模索していきたい。

5 コーディネーターより

今年度もコロナ禍ではありましたが、図書ボランティアの活動に加えて学校行事の支援活動ができました。運動会や学芸発表会では久しぶりに生徒の躍動する姿を見ることができ、うれしく思いました。

3年生の入試のための面接練習やガーデニング部とタイアップして行う栽培ボランティア等の活動は今年度もできず残念でした。学校の教育活動に少しでも役に立てればという気持ちはありましたが、感染防止のため仕方ありませんでした。

来年度こそはコロナが収束し活動の場が広がることを願い、準備を進めていきたいと思えます。

6 学校長より

今年度もコロナ禍にかかわらず、多くの図書館ボランティアの方々に活動をしていただき、感謝申し上げます。教員だけではなかなか十分に対応できない図書館の蔵書管理や整備に関して、ボランティアの方々の献身的な活動により、常に整った状況が維持できました。

また今年度は感染防止対策を徹底して運動会等の学校行事をほとんど例年のように実施しましたが、当日の受付、会場整理等で学校応援団の方々に関わっていただき、学校としては大変心強く感じました。

今年度も例年行っているその他の活動ができなかったことは誠に残念でしたが、来年度こそはいつもの活動が再開できることを切に願っています。

東葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

東葛西中学校長 日暮 昌司
コーディネーター 木下 真理子

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	38人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館整備	不定期	4人
学校農園管理	不定期	1人
英検、漢検の補助	年6回	30人

【学校農園でそだてている小松菜】



【美化活動 花壇の整備】



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・英語検定・漢字検定においては試験監督者等確保のためPTA役員から保護者の方々に声を掛けていただきました。両検定とも私立高校で受験時に有利になる制度が設定されているため、百人を超える受験希望ができました。また、座席の間隔をあけるなどの感染防止対策を行うため、多くの保護者の方にお手伝いいただきました。両検定とも滞りなく実施することができました。
- ・学校農園の環境整備、さらに小松菜の収穫も実施しました。収穫については部活動生徒が主体的に関わり、収穫した小松菜は給食で全生徒に提供するなど、農園の有効活用ができています。
- ・図書ボランティア活動につきましては、担当教員・区派遣の学校図書館支援員の方と連携し蔵書整理、掲示物等の作成等を実施しました。学校図書館の環境整備を手伝うことができました。
- ・美化活動として、花壇に多くの花を植えることができました。校内美化に貢献しています。

<課 題>

今年度もコロナ禍の影響で、第3学年生徒の受験への合格を応援する「餅つき大会」を中止せざるを得ない状況になりました。応援団と生徒の直接交流が厳しい現状があります。今後の新しい応援団の在り方を工夫する必要があると考えます。

5 コーディネーターより

今年度も感染症防止対策を優先させるために、第3学年生徒の受験応援の「餅つき大会」が残念ながら中止になりましたが、英語検定・漢字検定の試験監督・補助の確保、校内美化活動等を実施しました。学校農園の活用として、生徒たちとともに小松菜の種まきや収穫を行いました。

生徒たちの温かい表情に出会えることができる学校応援団を今後も発展させていきたいと考えます。

6 学校長より

「地域の子供は地域で育てる」をスローガンとして、学校応援団には「学習活動」「見守り」「学校環境の整備推進」「地域の伝統文化の継承」など、様々な面でご協力いただいています。今後は教員の働き方改革の推進に伴い、「地域での子供の見守り」等でより連携を深めていく必要があると考えています。

今年度は、コロナ禍ではありましたが、徐々に学校行事も復活し、それに伴い、学校応援団のご協力を仰ぐ場面がありました。運動会での来場者整理、夏休みの夜間パトロールでは多くの方が参加してくださいました。また、学校農園では、ボランティア部の生徒が小松菜などの収穫に参加させていただき、貴重な体験の場となりました。英検・漢検では、受験者の増加に伴い、監督者の増員をしていただき助かりました。

学校応援団の取り組みは、学校と地域をつなぐ重要な役割として、その存在は大きいものと言えます。

清新第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

清新第一中学校長 薦田 敏
 コーディネーター 松尾 泰典

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	9人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
検定支援	英語・漢字検定の試験監督 (各学期2回で計6回)	6
特別支援学級書写手本作成・補助	不定期	2
セーフティ教室講師 (ICT)	7月15日	1
子どもを笑顔にするプロジェクト支援(東京オリンピック聖火トーチの提供他)	9月15日	1
植栽	10月8日他	6
外壁壁画のタイル補修	不定期	9



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度コーディネーターの交代があり、より学校のニーズに合わせた、様々な活動を行いました。

- ・英語検定、漢字検定の各学期3回の運営・試験監督等をしていただきました。
- ・毎月1回書写の講師をしていただいています。
- ・情報セキュリティに詳しい学校応援団の方に、セーフティ教室で、情報モラル・SNSのマナーについて講演していただきました。これにより、本校ではSNSでの向き合い方を知る、いいきっかけとなりました。
- ・子供を笑顔にするプロジェクトとし、東京オリンピックのメイン会場であった、国立競技場の見学学習を実施する際、学校応援団で聖火ランナーだった前PTA会長に実際に使用された「トーチ」を持って来ていただきました。
- ・2学期に植栽をして頂きました。また、学校の外壁壁画のタイルが取れてしまっているところの補修を計画していますが、タイルの製造が終わっていて、在庫を探していただいています。見つければ、三学期から補修を実施します。

<課 題>

- ・検定のメンバーなどが入れ替わる際には、仕事の手順等の引き継ぎを確実に行う。
- ・昨年度よりは、多く活動ができたが、引き続き、新型コロナ感染拡大を鑑みながら活動の実施並びに精査、検討していく必要がある。
- ・植栽や外壁壁画のお手伝いスタッフの継続ができそうなので、引き続き発展させたい。

5 コーディネーターより

学校応援団の皆様には、清新第一中学校のニーズに答えながらの活動をして頂き本当にありがとうございました。今年度も新型コロナ感染拡大防止に努めながらの活動は大変だったかと想像します。社会が求めるニーズは時代とともに変化していきます。私自身は学校評議員としても清新第一中学校を見守ってまいりました。コーディネーターとして、学校のニーズに応えられるようできることから活動できればと考えておりますので、今後とも、清新第一中学校を応援するため、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

6 学校長より

学校の教育環境整備や、教員の働き方改革を進めるうえでのお力添えなど、学校のニーズに合った活動を大変精力的に行っていただきました。生徒の様子や保護者・教職員との連携を図りながら学校を応援してほしいと考えております。一年間ありがとうございました。

清新第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

清新第二中学校長 白石 亨
コーディネーター 諸隈 智映子

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	16人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
一人一鉢運動	11・12月 植え替えの手伝い	3
マラソン大会支援	12月 生徒の見守り	6



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度は、まだコロナ禍ではあるが、影響の少ない校外での活動で支援をいただいた。

一人一鉢運動では、ビオラを植え替えるための鉢や土の準備や植え替えるときの指導をお願いした。生徒も地域の方と一緒に、楽しく活動ができ、より花に対する愛情が芽生えたように感じる。

マラソン大会では、生徒のランニングコースのところどころに立っていただき、生徒の安全の確保、見守り、また、声援も送っていただき大変ありがたかった。こうした活動を通して、生徒が地域の方々との共同作業を経験し、一度途切れてしまった地域行事、活動に積極的に参加できる基盤ができたと思われる。

<課 題>

ボランティアの人材確保も課題の一つとして挙げられる。コロナの影響で途切れてしまった方も多く、その方たちの状況も変わってしまったがために、人材がそろわない状況である。新規の人材もなかなかそろえることができず、今後については様々な状況にも対応できる活動を考えていかなければならない。また、すべての活動が単発的で、計画的に継続的に活動できなかった点が大きな課題である。様々な学校行事や学習活動で支援いただけるような仕組みを考え、学校応援団の方々が、当たり前のように参加し、当たり前のように生徒と活動することを理想として取り組んでいきたい。

5 コーディネーターより

学校の教育活動の充実を図るため、PTA 関係の方々、地域の方々のご協力を得て本年度も学校への支援を再開することができました。おかげさまで、安心して生徒が学校に通うことができ、安全に学校行事を行うことができました。今後も、学習支援、学校行事などを通して学校づくりを応援していきたいと思います。

6 学校長より

まだまだ新型コロナウイルス感染症の心配がある中、学校応援団の方々、地域の方々、保護者の方々にご支援をいただきまして誠にありがとうございました。おかげさまで、予定された学校行事を無事に終えることができました。このような活動が再開できることを本当にうれしく思います。

学校では、保護者、地域の方々との相互の協力体制の中で、生徒を多くの目で見守り安全・安心のもと、教育活動を今後も続けていきたいと思っております。また、基礎・基本的な学力の定着、思いやりの心の育成、健康な身体を作るために、学校は日々教育活動を行ってまいります。今後とも皆様の応援をどうぞよろしく願いいたします。

瑞江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江中学校長 岩下 敏夫
 コーディネーター 平根 康宏

2 ボランティア数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	9人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	学期に1回	4人
		
パソコン学習講座	年9回	5人
		

4 今年度の成果と課題

<成 果>

学校応援団の活動も今年で12年目になりました。長く学校応援団として部活動指導をしていただいているベテランの指導員や、現役の保護者が毎年引き継ぎながら活動していただいている図書ボランティア、江戸川人生大学からパソコン指導といろいろな方面からご支援いただき円滑に応援団の活動が行われています。学校応援団のそれぞれの方々との連携も深まり、瑞江中学校の教育目標である「自ら育つ」生徒の育成に向けた教育活動を確実に支えていただき、開かれた学校づくり、生徒の健全育成の一助として大変お世話になっております。この数年は新型コロナウイルス感染症のため活動ができませんでしたが今後も生徒、教職員、PTA、地域の方々と一緒に、来年度以降の教育活動を推進していきたいと思っています。

<課 題>

- ① 新型コロナウイルスの影響で活動できなくなっている。また、学校のPC室からパソコンが無くなり来年度以降、新たな活動を立案・実施していかなくてはならない。
- ② 様々な活動をお願いしているがPTA活動よりも緩やかな組織であり、指導者の人材確保が難しい。
- ③ 年度当初に計画的に必要な予算案を立て、有効活用していくことの必要性を感じる。

5 コーディネーターより

瑞江中学校「学校応援団」代表（コーディネーター）となって12年目になりました。我が子が在籍中はPTA役員として教育活動に関わり、今年度も学校評議員として瑞江中の教育活動を陰ながら応援しています。子供が卒業すると中学校との関わりもなかなか取りづらくなってしまいがちですが、現役の保護者やPTA顧問会の皆様、おやじの会のメンバーなどとともに、学校応援団としていろいろな場面で学校の活動に関わってきました。今年も残念ながらコロナ感染症のため活動できない状態となりました。来年度は学校応援団として大きな応援の広がりを作り上げていきたいと思えます。益々のご支援とご協力をどうぞよろしく願いいたします。

6 学校長より

今年度もコロナ感染症のため活動できませんでしたが。今までは本校の卒業生である、江戸川人生大学の方々のご協力により、年9回の「パソコン教室」を実施してまいりました。昨年度は図書室保護者ボランティアの方々の活動はできませんでしたが、今年度はコロナ感染が減少した時期に、図書室をきれいに整備していただき大変助かっております。生徒一人一人の可能性を伸ばすため、いろいろな面から支援していただき、とてもありがたいと思っております。来年度は、今までの活動を継承しつつ、内容の充実を図ってまいります。

瑞江第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江第二中学校長 滝澤 清豪
コーディネーター 川原 晴久

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	14人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書ボランティア	毎月1回 月曜日に集まって活動	14人
学校花壇ボランティア	コロナ禍のため今年度は休止	14人

学校図書ボランティア



学校花壇ボランティア



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- 1 本の修理、本の購入、本の廃棄が計画的にできていることで、蔵書の管理がしやすくなっている。
- 2 ボランティア活動に参加する機会を得て、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育成できた。
- 3 PTA や OB 会の方とのふれあいを通して地域の一員であることを自覚することができた。

<課 題>

- ・教員及び図書館司書と学校応援団との協働、役割分担の明確化を図ること。
- ・活動内容の整理と確認及び新たな取組を模索すること。
- ・コロナ禍で学校応援団と生徒との協同作業の実施が限定的であること。

5 コーディネーターより

学校応援団代表として、学校に協力できることをPTA・OB会の皆さんや同窓生とよく相談している。これからも学校との連携を一層密にしていきながら、教育支援に意欲のある方々を発掘して学校を応援していきたいと考えている。

開校当時に園芸部員として地域の方々と共に作り上げた学校花壇の意味（「静」ゾーンの校舎と「動」のゾーンのグラウンドとの線引きを意味する）と学校が開校以来、常に地域と共にあり、生徒、教職員、保護者、地域の皆さんの多くの努力、情熱に支えられて今があることを伝えることができた。

学校応援団代表として花壇ボランティアや図書ボランティアなどの活動に生徒と一緒に取り組めることを喜び、学校応援団の活動がより広く、活発になるよう代表として活動していきたい。

川原 晴久

6 学校長より

生徒に面接練習をする中、本校の特徴はと尋ねると、『校内の花壇に咲いているたくさんの花と、学校の敷地を囲んでいる草花が瑞江二中の特徴です。』と答える生徒が少なくありません。また、来校者や近隣の方からいつもお褒めの言葉をいただいています。コロナ禍で、今年度はこれまでのように学校応援団の皆様と生徒が連携した取組を行うことはできませんでしたが、コロナの状況を見極めながら応援団の皆様、教職員、生徒が一体となって花壇の手入れを行っていく活動を徐々に復活させていきたいと考えています。そして、図書ボランティアの活動では、毎月1回、図書館の整備をしていただき、昼休みの図書館開放では、生徒が訪れていました。今年度もコロナ禍により制限のある活動となりましたが、来年度は少しずつでも活動を再開させて、地域とともに生徒たちを育てる体制が一層強固になっていきますよう、瑞江二中への応援をお願いいたします。

滝澤 清豪

瑞江第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江第三中学校長 山口 孝
 コーディネーター 澤井 茂

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	2人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	不定期（図書室内掲示物作り、昼休み 閲覧補助、廃棄図書整理）	2人

図書ボランティア



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度は2名の図書ボランティアの方が熱心に活動して下さった。ほぼ毎日のようにボランティアの方が来てくださり、活動することができた。また、ボランティアのお子さん（本校卒業生）も一緒に図書館の整理をしたり、掲示物を充実したりして下さった。図書館に入りやすいように、入口には新書紹介コーナーを設置したり、かわいらしい掲示をしたりして明るい雰囲気になった。またポップをつけたり、本の種類が分かりやすいように整理してくだったりして、生徒が本を手に取りやすいような環境になった。

<課 題>

今年度ボランティアを受けて下さった方が家族を連れて来て下さったことで、ボランティアの輪が広がるようにしたい。しかしながら、コロナの状況もまだ不安が続くため、徐々に増やしていくしかないのが現状である。今携わって下さっている方々を大切にしながら、来年度はさらに啓蒙活動をしていきたい。また、ボランティアの方と話した際、図書館内に絵本コーナーや探究コーナーを作りたいという希望もあったので、活動を充実させていきたい。

5 コーディネーターより

今年度は、図書室の整備や飾りつけなど感染症予防に努めながら活動をしてきました。せっかくの新校舎の図書室ということもあり、飾りつけや図書整備などに力を入れました。卒業生のお子さんもお手伝いに来てくださり活気あふれる活動となったことが喜ばしく思っています。

来年度はさらに、地域の特色を生かしながら、家庭、地域、学校がそれぞれの役割を明確にし、お互いを助け合っていくため、さらに活動の輪を広げていきたいと考えています。（澤井）

6 学校長より

今年度は感染症予防対策を講じながら、朝のあいさつ運動、資源回収など少しずつコロナ前に行ってきた活動を復活させることができました。その中で特に、ボランティアの方々には新校舎移転を契機に図書整理を推進していただき、季節ごとの飾りつけをして下さったり、種類別や新刊のコーナーを設置して下さったり等、生徒たちにとって読書に親しみやすい環境づくりを推進していただき、大変有難く感じております。

本校の教育活動にご理解、ご協力くださっている地域町会やPTAOB会、さらに保護者の皆さまの支援には心より感謝申し上げますとともに、今後ともご指導とご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。（山口）

春江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

春江中学校長 横枕 耕史
コーディネーター 芦田 昭八

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	21人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
防災教室	11月19日(土)	15
図書ボランティア	月、金曜日	8
学校行事見回り	行事ごと	8

《令和4年11月19日(土) 防災教室の様子》



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度の活動は防災教室・図書ボランティア・学校行事の見回り等の3種である。

防災教室については、江戸川消防署 瑞江出張所、江戸川区危機管理室防災係を中心として実施した。参加団体は、江戸川区東部事務所地域サービス係、避難所開設委員、地域からは8町会が参加した。その活動の中で、生徒が次のブースへ移動しやすいよう誘導したり、防災訓練のサポート、終了後の清掃活動などを実施して下さった。

図書ボランティアについては昨年度からの活動である。今年度から、金曜日だけでなく、月曜日にも学校図書館を開館し、その業務に携わっていただけることになった。生徒への本の貸出業務だけではなく、書籍の廃棄や購入などの管理、学校図書館の内装の装飾、「春中図書館通信」の毎月の発行など精力的に活動していただいている。特に、今年度は図書館の内装の装飾等にも力を注いで下さった。

学校行事等見回りについては何年も継続して活動していただいている。「春中メンズクラブ（おやじの会）」の方々が運動会や学習発表会といった大きな行事の警備をはじめ、施設の営繕活動にも取り組んでいただいている。今年度は特に運動会の警備や自転車置き場の管理を行った。

<課 題>

防災教室では、地域の防災啓発活動として、学校応援団が中心となって地域を巻き込んで活動することである。そのためには、規模や防災体験の種類を増やし、それをスムーズに運営する仕組みと地域と学校応援団が連携するスキームを作成する必要がある。

また、運動会の見回りでは、応援団の声掛けにも応じない保護者もいた。

5 コーディネーターより

長い間、春江中の伝統ともいえる活動に携わった、ボランティアの方や先生方、本当にありがとうございました。また、図書ボランティアや学校行事警備等については直接関わっていませんが、活動している方々には本当に感謝しております。今後も学校応援団コーディネーターとして学校と地域のよりよい関係のために尽力したいと思います。

6 学校長より

学校応援団コーディネーターの芦田様をはじめ、防災教室、図書ボランティアの活動、春中メンズクラブでの学校行事の見回り等の活動に携わった学校応援団の方々に、常日頃の活動について深く感謝申し上げます。このような活動は、教員だけでは、運営できないものです。みなさまのお力添えがあるおかげで学校の円滑な運営ができております。今後とも、生徒の健全育成のためにご理解とご支援よろしく願いいたします。

鹿本中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

鹿本中学校長 富永 光一
 コーディネーター 加藤 正人

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	13人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学習補充教室	長期休業中（夏季・冬季）	0人
特別支援学級補助	不定期	0人
図書館整備	不定期	0人
手話通訳	難聴学級「卒業生講演会」（9月）	1人
餅つき会運営	延期	0人
朝のあいさつ運動	学期1回、一週間	PTA活動
心和む 花を！	学期1回	2人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

鹿本中学校の周辺地域は、学校を温かく見守り、応援していこうという伝統的な協力体制があります。その伝統は受け継がれ、現在でも保護者、PTAのOB・OG等の皆様や卒業生の皆様から温かなご支援・ご協力をいただいております。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の防止に努めながら活動を実施いたしました。一昨年度から始めた「心和む 花を！」プロジェクトを推進し、道路に面した敷地内に花を植え、咲かせることができました。生徒らが手入れを丁寧にしたため、予想外に長く咲き続けました。生徒も手ごたえを感じていましたが、総合体育館を利用する方々から「きれい」「歩く楽しみがある」などお褒めの言葉をいただいたことが、何よりもの喜びとなりました。これを契機にさらに地域に根差した学校を目指していきます。

<課 題>

ボランティアの登録人数やPTA以外の地域協力者を確保するのが難しい状況があります。平日の放課後に図書館解放や学習教室を手伝ってくれる人材を確保し、学校司書と連携し、読書活動や学習をより一層、活発にしていければと考えています。また、今後、応援団と生徒が協力して校内の整備・美化活動を活発にしていきます。3年前にPTAOB・OG会が再編成されました。コロナ感染症の影響もあり、十分な連携活動を、進めることが課題です。

5 コーディネーターより

この一年間、鹿本中学校の取り組みにご協力とご支援をいただきまして、心から感謝申し上げます。応援団は「あくまでボランティア」とは言え、自分の時間・生活を割いて学校に出向いて下さる方々の善意に甘え続けることは心苦しく感じます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の防止に努め、少しずつ活動を再開いたしました。「心和む 花を！」プロジェクトも3年目に入り、徐々に地域から認知され、「次は何の花?」「手入れが大変でしょう」などという声を聞きます。関係ある鹿本中学校が地域のために役立ち、評価されていることは、何よりも嬉しいことです。地域や卒業生などの協力を得られるようにさらに努力します。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

6 学校長より

学校応援団の皆様、卒業生の方々、そして、PTAの方々など多くの皆様からの応援をいただきまして、心よりお礼申し上げます。

鹿本中学校には、通常の学級と特別支援学級、そして難聴通級学級があります。それぞれ、特色ある教育活動に取り組みながら、お互いを認め合い、励ましあい、高めあって中学校生活を送っています。学校応援団の皆様には、この特色ある教育活動にご支援を戴いております。教員では補いきれない分野での活動においても取り組めると感謝しております。今後とも生徒の自己実現のため、ご指導、ご協力頂きますよう、よろしく願い致します。

鹿骨中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

江戸川区立鹿骨中学校長 大谷 雅也
 コーディネーター 川合 里美

2 ボランティア数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	5人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花壇整備	年4回	5人
図書館整備	年1回	5人
敬老の日のお手紙	年1回	5人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

「日々の生活を大切にして、中学生でもできるボランティアを行って、学校や社会がよくなるような喜びや楽しみをつくりだしていきたい」と、生徒が自ら活動に取り組み、学校応援団に支援していただきました。

○花いっぱい運動

「花の街 鹿骨」の伝統を守るために、学校を花でいっぱいにする活動を行いました。花壇のレイアウトなどを生徒が自ら行い、正門の花壇に花苗を植えました。花苗は、学校評議員さんからも協力をいただき、年間を通して花壇を楽しんでいただきました。

地域の方が花壇を見て「とてもきれいだね」と言葉をかけていただきました。「この花壇を見て、元気で明るい気持ちになってくれてうれしいです」と生徒の感想も聞くことができました。また、10月には3月の卒業式を祝うためにチューリップを植える活動も行いました。

○敬老の日のお手紙

敬老の日に有志の生徒が、メッセージカードを作成しました。民生児童委員を通して、町会の高齢者の集いで披露していただきました。「鹿骨中学校の皆様の励ましやお礼の言葉に元気に長生きしなければと思いました。心温まるメッセージをありがとうございました。」とお礼状をいただきました。

○図書館ボランティア

図書館の整備や廃棄本の整理を学校応援団の方にご協力いただきました。

<課 題>

学校応援団の組織を再確認することと、学校と応援団の間の情報の共有方法について体制を確立したい。

5 コーディネーターより

今年度初めて、コーディネーターとして鹿骨中の学校応援団に参加しました。花いっぱい運動として、玄関前の花壇の整備やプランターへの球根植え、ひまわりの栽培、図書館整備を行うことができました。来年度も、少しでも多くの方々と幅広い活動を行い、少しでも鹿骨中学校の教育活動の支援ができればと思います。

6 学校長より

今年度も学校応援団の活動が制限されたが、コーディネーターの川合様や学校評議員の方々にもお手伝いいただきました。来年度は、活動の幅を広げたいと考えています。教育活動には、学校応援団の支援が不可欠であり、引き続きのご支援をお願いしたい。

篠崎中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎中学校長 清水 秀登
 コーディネーター 中川 博喜

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	10人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
朝の声かけ運動	毎日実施	580人
運動会パトロール	年1回	20人
祭礼パトロール	中止（年1回の予定であった）	（20人）
篠中フェスタ	オンラインで開催（10月末）	10人
PTAバザー	中止（年1回9月実施予定であった）	（20人）
校内美化活動	中止（年1回7月実施予定であった）	（10人）
花壇整備	2月下旬に実施予定	10人



朝の声かけ運動



フェスタのバザー（写真は以前のもの）

4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・生徒の育成を学校・保護者・地域が一体となって育てていく土台になってきている。
- ・「朝の声かけ運動」は伝統的な活動になっている。ほぼ全ての保護者が年間を通して1回ずつ参加するため、登校時の生徒の様子を共有することができて大変意味深いものになっていると考えている。参加した保護者が、あいさつの様子を記入して職員室に一声かけて学校の様子などを話すなど連携が深まり、生徒たちもみんなに見守られている感を強く感じている。
- ・篠中フェスタは、直前まで実施予定であったが、コロナの感染者数が急増したため中止となった。バザーの準備はほとんど完了していたので来年度に引き継ぎたい。
- ・校内美化活動、環境整備についても生徒と一緒に活動する良い活動であったが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため中止になった。
- ・卒業式に向けて2学年の保護者が正面玄関の花壇整備を行う。昨年度は実施できなかったが、今年度は2月下旬に実施予定である。

<課 題>

- ・学校応援団の人材の確保や平日の日程調整が難しい。
- ・教職員との連携を一層充実していくことが必要である。

5 コーディネーターより

- ・今までの活動を継続しながらも、新しい試みや改善をして現在の活動の形になってきています。PTA会長経験者が代表になるケースが継続しており、PTAとの連携や地域との連携もスムーズにおこなわれていることが活動を深めているように感じています。
- ・今年度は、「朝の声かけ運動」「運動会パトロール」は、実施できた。他はほぼ中止になってしまいましたが、「篠中フェスタ」のバザーは直前まで実施する予定で準備まで完了できたことはよかったです。昨年同様オンラインでフェスタを開催することができたのも良かった。
- ・地域性の温かさや篠崎中学校が地域から愛されていることを大切にしていきたいと思っています。
- ・今後も生徒、学校のために、地域の住民として学校応援団に協力していきたいと思っています。

6 学校長より

- ・今年度は1学期から年間を通して「毎朝の声かけ運動」を実施することができました。保護者の皆様は、お忙しい朝の時間にもかかわらず、毎日代わるがわるご協力くださり生徒たちを温かく見守りながら挨拶をしてくださっています。心より感謝するとともに大変心強く思います。
- ・校内美化活動の学校行事への協力、また祭礼パトロールのPTA行事へのお手伝いなどは、今年度もしていただけていませんでしたが、新型コロナウイルスがやや収まってきたため、運動会の実施、花壇整備の実施、オンラインによる篠中フェスタの実施を行うことができました。様々な場面で工夫をしながらご協力をいただき感謝しております。
- ・学校・保護者・地域の願いが、「誇れる母校」を目指し、地域の一員として自覚をもてるように育てています。今後もネットワークをさらに広げ、強めることにより生徒のために充実を図っていきたいと思います。

篠崎第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎第二中学校長 本杉 貴保
コーディネーター 朝倉 公義

2 ボランティア数（令和5年1月末現在：今年度未募集）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	0人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

（新型コロナウイルス感染症までは、下記のような活動を行っていましたが、感染防止対策として今年度も活動を中止しました。）

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
あいさつ運動	毎週水曜日	
行事支援	不定期	
学校公開	不定期	

4 今年度の成果と課題

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から全ての活動を中止しました。

<成 果>

【コロナ禍前までの活動】

- ・ 6月実施の運動会での、自転車整理や受付業務のお手伝い。
 - ・ 10月に実施するPTA主催のバザー「篠二プラザ」において、餅つきを担当。
 - ・ 柔剣道場周辺にある竹林と柵の環境整備や管理。
- 不定期ではありますが、年間を通して地道な活動をしていただけていました。

<課 題>

- ・ ワクチン接種がある程度すすんだものの、流行には波がある。さらに、ボランティアの方は、PTAのOB・OGの方がほとんどで高齢化が進んでおり、新型コロナ感染対策防止の観点から活動を計画して行うことはできなかった。
- ・ 今年度もコロナ禍で、高齢化が進んでいるボランティアの方との交流は、感染のリスクや重症化しやすいなどの観点からも直接的な交流をもつことはできなかった。

5 コーディネーターより

コロナ禍以前は、応援団の皆さんには、公私ともに大変ご多用の中、それぞれが都合のつく時間で活動をしていただけておりました。しかし、社会全体でワクチン接種がすすんだものの、新型コロナウイルス感染が収束を向かえない中での活動は控えさせていただきました。

そして、防止対策の観点だけではなく、ボランティアの方及びそのご家族の命を守ることを第一に考えさせていただきました。今後も、型を変え様々なウイルスが現われてくることも予測されますが、世界的にコロナ禍が、一日も早く収束することを願っております。

しかし、今後の活動について考えると、内容によっては現在のメンバーだけでは体力的にも厳しいものもあると思います。そこで、学校とも協議のうえ新たなメンバーを募る活動を進めていかなければと思っております。コロナ禍終息後は、皆さんと一緒に篠崎二中を盛り上げていきたいと思っております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

6 学校長より

学校応援団の皆様には、日頃から本校の教育活動にご支援とご協力をいただき、感謝申し上げます。応援団の皆様のご協力には、学校としてもありがたく思っております。

今年度も、新型コロナウイルスの感染状況に大きな変化はありませんでした。そのため、感染対策を緩めることなく対応して参りました。今年度も学校応援団やPTAの皆様にも事情を説明してご理解をいただき、今まで行っていた挨拶運動や環境整備などの活動も今年度も中止とさせていただきます。

一日も早く新型コロナウイルス感染拡大が収まり、地域の皆様が学校応援団として本校を応援していただき活動できることを願っております。

小岩第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第一中学校 学校長 青山 昭広
 コーディネーター 山辺 登

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	約 20 人
	学生ボランティア	0 人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
あいさつ運動	生徒の健全育成のためのあいさつ運動 (不審者パトロール含む)	延べ約 30 人
三校一園合同音楽会	楽器運搬作業他 (11 月)	延べ約 15 人
地域ふれあい面接	面接官として面接の指導 (12 月)	延べ約 10 人
玄関装飾花壇づくり支援	プランター及び樹木植え付け、花壇 (不定期)	延べ約 15 人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

P T A活動に学校応援団活動を位置づけています。昨年度は、学校行事に制限がかかりできることが限られていましたが、今年度は少しずつ学校行事を再開し、学校応援団の活動ができました。また、その折には学校評議員・民生児童委員・青少年委員・保護者・地域の方々と情報交換を行いました。昇降口には、多くのプランターを整備し、生徒たちが少しでも気持ちがよく登下校できるよう季節の花で飾っています。また、P T A役員や「学校応援団」の方々からの発案で、登下校のパトロールを兼ねた保護者のあいさつ運動を行いました。生徒たちとあいさつし合うふれあいは、地域から賞賛の声があがっています。さらに、今年度はじめて「地域ふれあい面接」を実施し、生徒たちの面接指導に当たっていただきました。P T A役員や「学校応援団」の方々からの応援はありがたく、今後もコロナ禍ではあるが、工夫しながら継続して活動していきます。

<課 題>

本校は近隣小学校のP T Aと連携し三校一園P T A連絡協議会を（園は閉園）設置し、例年三校一園合同音楽会を開催している。本年度は、本校が運営を担当し、三校P T Aや町会等地域の皆様の協力を得て開催することができた。今後も、感染状況を鑑みながら出来ることを模索し、P T A・地域の方々に広く呼びかけ協力をお願いし、ボランティアを募り継続していきたい。

5 コーディネーターより

本校における学校応援団の活動は、例年通り保護者、P T A役員の方々やP T A役員O B、そして、同窓会や町会等地域の皆様といった本校と関わりのある皆様にご参加いただき活動しています。しかし、今年度もコロナ禍で状況を見ながらの活動となりました。学校応援団の活動を継続していくためには、それぞれができる範囲で無理をせずご協力いただくことが、大切と考えています。今後の活動も、まだまだ予測のできない年になるかと思いますが、この経験を糧に生徒たちが成長できる環境づくりをサポートしていきます。

6 学校長より

本校では、「みんなが幸せになれる学校」を目指しています。実現のためには、学校、家庭、地域が力を合わせていかななくてはできません。本年度はコロナ禍の中でも感染症対策を工夫しながら、保護者、P T A役員、P T A役員O B、同窓会や町会等地域の皆様等、多数の方々の応援をしていただきました。心より御礼申し上げます。今年度は新たに「地域ふれあい面接」を実施しました。皆さまには、生徒たちのために快く面接指導にあたっていただき、ありがとうございました。さらに学校、家庭、地域が協力した行事が増えていくことを願っています。今後も、生徒の健やかな成長へのお力添えをよろしく願いいたします。

小岩第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第二中学校長 高萩 広志
 コーディネーター 尾崎 友信

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20 人
	学生ボランティア	人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
パンジー栽培・高齢者施設への贈呈	9月 パンジーの栽培 12月 高齢者施設への寄贈	2 (生徒7名)
環境整備	10月29日 江戸川土手清掃	5 (生徒175名)
募金活動	1月6日 JR小岩駅前でのユニセフ募金	2 (生徒37名)
土曜受験講座	3年生への都立入試対策講座の開講	2



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・栽培したパンジーを高齢者施設へ届ける活動を昨年度に引き続き行いました。前校長先生からいただいたパンジーを校内で成長させ、12月に生徒会生徒が高齢者施設にお届けしました。参加した生徒は、高齢者の方々に喜んでいただいたことで、人のために役に立つ嬉しさを感じることができたようです。
- ・3年ぶりに江戸川での土手清掃ボランティアを実施しました。応援ボランティアの方のほか、175名の生徒が参加し、江戸川病院前付近から小岩菖蒲園までの河川敷にあったゴミを拾いました。缶・ペットボトルをはじめ、電気製品やゴルフバッグにいたるまで、たくさんのゴミがありました。生徒はゴミの多さに驚くとともに、土手がきれいになったことによる達成感を味わうことができました。
- ・小岩駅前やその周辺において、ユニセフ募金活動を行いました。応援ボランティアの方のほか、生徒会生徒や希望して参加した生徒総勢37名が大きな声で募金を呼びかけました。多くの方々に募金をしていただき、参加した生徒はやってよかったと心から思えたようです。
- ・希望した3年生を対象とした土曜受験講座を実施しました。2学期を中心とした土曜日の午前中に英語・数学の2教科の授業にのべ15名の生徒が参加し、それぞれ講師の先生に熱心に授業をしてもらいました。参加した生徒はみな意欲的に問題に取り組み、解説を一生懸命に聞いていました。

<課 題>

コロナ禍ではありましたが、3年ぶりに江戸川土手清掃とユニセフ募金活動を実施できました。多くの生徒がボランティアとして参加できましたが、地域の方々に応援団として参加していただくことはなかなかできなかったのが残念でした。今後も新型コロナウイルスの感染防止に努めながら、多くの方々とともに活動を進めていきたいです。

5 コーディネーターより

まだまだコロナの影響もありますが、応援団の活動が来年度より一層実施できるようになり、学校と地域とがともに活性化されることを期待しています。来年度は小岩二中の生徒のみなさんと楽しく活動をしていきたいです。

6 学校長より

来年度は学校応援団の活動を通して「学校と地域の絆」をさらに強められるようにと考えています。「応援したくなる学校づくり」のために私たち教職員も保護者・地域の皆様方とコミュニケーションを深めてまいります。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

小岩第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第三中学校長 山田 人也
 コーディネーター 渡邊 哲也

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	93人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
廃品回収	年4回	80人
菜園管理・指導	年4回	1人
面接指導	年1回	12名



グリーンカーテン用・ゴーヤの苗の鉢植え



屋上菜園での野菜作り



廃品回収



3年生の受験面接指導

4 今年度の成果と課題

<成 果>

学校応援団のみなさんの力が、校内教育活動において生徒の支えとなっています。生物環境部の野菜作り、受験期の3年生を対象とした面接練習、廃品回収を地域の方々にお願いしています。これらは「心の教育」を重視している本校の大きな特徴の一つとなりました。団長（コーディネーター）を中心に学校の環境整備にも計画的に取り組むことができました。本年度は教室前にゴーヤによるグリーンカーテン作り、屋上菜園で行った野菜作りを通し、植物への理解を深めるなど、生徒たちの生きる力につながりました。

<課 題>

サポーターとしての大人の募集や維持費の捻出が課題です。屋上緑化の維持管理を中心にやってくれる学校応援団員を見つけることを目標としていましたが残念なことに見つけることができませんでした。令和5年度も新たな応援団員を募集し、さらなる活性化を図っていきます。

5 コーディネーターより

私が学校応援団として活動するきっかけは屋上緑化のお手伝いでした。日々進化していく屋上での活動を進めていくうちに生物環境部のお手伝いをするようになりました。

子供達と過ごす時間はとても楽しく、最初は土いじりに消極的だった生徒も何かを発見したり自然と触れ合ったりしているうちに、“わあ！すごい！”とすごく感動し、積極的に活動に参加するようになった姿を見ると本当に嬉しくなります。収穫の喜びなど楽しいこともたくさんある反面、夏の暑い中での草取り、芝刈りなど大変なこともたくさんあります。微力ではありますがこうした活動のお手伝いをするにより、生徒たちをより身近に感じながら学校の環境を整えることへ繋がっていけばこんなに嬉しいことはありません。

学校応援団では、屋上緑化など自然との共存する活動の他にも部活動や学校行事の取り組みのお手伝いもしています。少しでも学校の力になりたいと思っている地域の人々と、学校教育をより充実させたいと考えている先生方の思いがつながり結成された学校応援団。こうしたあたたかい気持ちのつながりが充実した学校環境をつくり、子供達へと伝わっていくことを願いつつこれからも活動していきたいと思えます。

6 学校長より

学校応援団の取り組みもスタートして13年目を迎えました。様々な活動を展開していますが、学校の教育環境の充実や生徒の心の充実という目的に叶ったプロジェクトになっています。本校では校舎屋上での植物栽培、学校内外の環境整備がその活動の柱となっていますが、応援団の方々には生徒の活動を支える大きな力になってもらっています。部活動や学校行事にもお力添えをいただいております。何よりも、生徒たちが屋上の野菜や植物、生物を大切に育てたり、見守ったりしながら自分たち自身の心を育ててくれていることが大きな成果だと考えています。これからも、保護者や地域の方々のご協力ご支援を得ながら有意義な学校応援団の活動を続けていきたいと考えています。

小岩第四中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第四中学校長 鈴木 訓文
コーディネーター 若松 喜美子

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	4人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
面接指導	年1回	1人
花の植樹	年3回	3人

<花の植樹>

「玄関に花を植え、季節の花を楽しむと共に、花に親しむ心を築く」
学校応援団の協力により、玄関に花を植えていただいた。季節の花を観賞すると共に、花への興味をもってもらえた。コロナ禍もあり、生徒のボランティアは今回、募集しなかった。



<面接練習>

三年生の面接練習の面接官として1名の方に協力していただきました。



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・「地域ふれあい」として、地域の方に3年生の面接練習をお願いしている。生徒は緊張しながらも実際に近い形の練習ができ、地域の方には生徒の実態がつかめるということで、双方にとって良い機会となっている。
- ・玄関に花を植えていただき、季節の花を楽しみながら、登下校できている。また花への興味や関心をよせるようになってきている。コロナ禍ということで、生徒のボランティア参加はなしとした。

<課 題>

課題として次の3点があげられる。

- ・コロナ禍で今までできていた事が難しくなっている。例年通りの活動ができないので、できることを考えながら、地域の人材を活用し、多くの方に協力をお願いしたい。
- ・生徒参加の活動を考えたいが、部活動が日々あるので、無理のない程度で、子供たちができる事も今後考え、活動する。
- ・菊を育てていた場所がスロープになり、昨年・今年度は菊づくりを断念した。長年菊づくりを行い、生徒に鑑賞する事が出来ていたが残念である。しかし菊に代わる企画を考えるのが難しい。

5 コーディネーターより

学校応援団長として、15年間学校支援に携わっている。「菊作り」を今年度も断念した。その代わりに玄関に花を植えていただいた。少しでも、生徒が登下校で花に関心を抱いて貰えれば幸いです。また、面接などの機会に学校の様子もうかがわれ、とても楽しみにしている。今後も、いままでできていたことが、当たり前にならず、困惑することがあったが、地域に根を張った「学校応援団」を目指して、学校の要望にあった幅広い支援の輪を広げていきたい。

6 学校長より

コーディネーターをはじめ学校応援団の関係者の皆様には、ご多用にもかかわらず、例年と変わらず面接練習や花の植樹など、いろいろな活動をしていただき、とても感謝しております。今年度も感染症対策の影響でできないことも多かったのですが、本校では、健全育成の場として、地域の皆様と生徒がふれあう機会を大切にしています。地域での生徒のボランティア活動が再開されれば、また参加させていただきたいと思っております。そのような活動をさらに推進していくためには、学校応援団の皆様のご協力が不可欠です。引き続き、来年度以降も本校の応援をよろしく願いいたします。

小岩第五中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第五中学校長 石井 千歳
 コーディネーター 前場 利彦

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	17人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校農園	通年	8
高校合同相談フェスタ	7月9日(土)	10
PTA 来てきてバザー	10月(コロナ感染症拡大のため中止)	10
地域清掃	2月(予定)	8

【栽培体験の一例】学校農園で野菜（玉ねぎ）を収穫→給食で喫食



収穫



校内で調理



玉ねぎカレーになりました

4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ① 感染防止対策のため中止になっていた「高校合同相談フェスタ」を3年ぶりに開催することができ、卒業後の展望を明るく生徒に提示することができました。
- ② 「学校農園」については引き続き充実した活動を行いました。農園部皆様のお力添えで特別支援学級や技術科の授業において長ねぎ・玉ねぎ・冬瓜・ミニトマト・レタスなどの収穫作業を行うことができ、また、6月は玉ねぎ・9月には冬瓜といった野菜を給食に提供することにより収穫・地産地消の喜びをより生徒に体験してもらえたことと思います。

<課 題>

地域の人的資源を有効に活用できている一方、一定のメンバーに負担が偏ることなく、持続的な活動を行えるような人材確保が今後の課題です。

5 コーディネーターより

応援団団体の代表の皆様方とは、運営委員会の席にて応援団の役割や活動内容について話し合いを行いながら事業を進めて参りました。ボランティア活動を通じて生徒たちの健全育成を地域としてどのように応援できるか協議しつつ、引き続き積極的に活動していきたいと思っております。

未だ感染症拡大の懸念も払拭できない状況ですが、これからも地域の方々にも関わっていただけるよう活動の輪を広げていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

6 学校長より

応援団の皆様には、いつもお世話になっております。校舎内外を見廻る度に応援団の方々との活動の積み重ねを実感しております。

特に東側に位置する学校農園は季節の移り変わりを感じさせてくれる場所であり、本校の生徒たちも、ネギやトマト・冬瓜などの成長を日々目にしながら収穫から喫食までを体験できるということは、成長期において大変重要な機会をいただいていると考えております。

今年度は3年ぶりに「高校合同相談フェスタ」を開催することができましたが、「PTA 来てきてバザー」は昨年度に引き続き中止となってしまいました。

今般の感染症による活動制限は残念ではありますが、学校応援団の皆様との時間は地域と学校を結ぶ貴重な場であると認識しています。日々のご尽力に感謝申し上げますとともに、引き続き応援団の皆様のお力添えをいただけますよう、お願い申し上げます。

上一色中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

上一色中学校長 梅田 保幸
 コーディネーター 菅原 一之

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	7人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書整備、図書館管理	月2~3回	5人
花いっぱい運動	不定期	2人

花いっぱい運動



学校図書館ボランティア



4 今年度の成果と課題

<成 果>

本校では昨年と同じく、「図書ボランティア」による放課後の学校図書館開館を実施しています。当初、職員会議や研修会がある日としていた開館を、今年度は新規の生徒が学校図書館を利用する機会を増やし、読書・調べ学習の推進となるよう努めました。新たなボランティアの方も増え様々な企画をご提案いただいています。また、学校図書館のポップや飾りつけなどの装飾に力を入れていただきました。花いっぱい運動では、季節を感じさせる花々を花壇やプランターいっぱいに咲かせ、花あふれる学校を目指しました。学校の教職員とボランティアが協力してきれいな花を咲かせることができました。

<課 題>

本校では、近年、学校応援団に関わる人材の確保が課題としてあげられます。今年度は、学校図書館ボランティアの方々が日数を多くしていただき、学校図書館に力を入れていきました。コロナ感染防止もあり、少しずつ日常に戻していくことが急務と考えています。しかし、学校応援団の人数が少なく、計画的に実施できなかったことが課題です。保護者が積極的に参加していただきました。生徒が来室しやすい学校図書館をとということで工夫いただいています。

来年度は、募集活動をしていきます。現行の花いっぱい運動に参加してくださる地域の方や学校図書館ボランティアに参加してくださる地域の皆様の力をお借りしながら応援団の活動の幅を広げるとともに、活動を活性化していきたいと思えます。

5 コーディネーターより

コロナ禍発生以来、なぜか時間的なゆとりがなく忙しい思いに駆られている。そこで、目の前の大きな課題、学校応援団の目標に改めて思いをやれば、生徒たちが自らの学びなどに専心できるような環境づくりに一層の意を用いることになるだろう。生徒達には時代の変化があっても流されず確かな道を歩んでもらいたいものである。時に不便さが思いがけないゆとりなどを与えてくれる驚きもある。生徒たちは、オンライン受験にも、やる気がそがれなかった。忘れてはならないことは、立ち止まらず、苦勞の事態に臆せずじっくり思いを廻らすことではないか。勿論、流行りのスマホは止めることにしたいが…。

コロナ禍で最近私の学校訪問回数が減ったが、校門前のベンチに腰掛け部活などの学校の息吹に触れ、生徒たちの覇気を感じることが出来る。変わりゆく世の中ではあるが、生徒はかくも健やかに困難と対峙している。学校応援団も、僅かであるが助けに込めたい。そこで着目すべきは人材である。人を抜きにして事は成り立たない。学校の援けに込めることに大きな意義のあることを思えば、地域の象徴としての意義もあるだろう。地域の人材力が学校応援の根底にあることが望ましい。この先、学校応援団はどこに進むのか。地域ぐるみが期待したその源に十分に込められるだろうか。我が地区の地域力は十分に備わっている。「期待に込め」「助けに込め」ますます対応を強めていきたいと願っている。

6 学校長より

本校の学校応援団は学校図書館のサポートと花いっぱい運動にご協力いただいております。ただ、本年度もコロナ禍での活動を強いられることとなり、花いっぱい運動の方はなかなか集まる機会に恵まれず、まだまだ工夫が必要だと思っています。学生ボランティアも含めて学校応援団の募集もさらに進めていく予定です。来年度も保護者や地域、学校応援団の皆様の力をお借りしながら、通常活動がもどることを願って尽力してまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。